

■(京極)佐々木高氏(道誉) 武将, 守護大名。武家政権再興すべく室町幕府形成に貢献, 公家を侮蔑の“婆娑羅”代表。

ささきたかうじ

1296= 近江国米原で, 近江佐々木氏の庶流京極宗氏の子, 外祖父宗綱の子貞宗の嗣子に生まれる。

1305= 9歳:

1314=18歳: 左衛門尉となる。

後醍醐天皇・1318=22歳:

1322=26歳: 京極氏の家職たる檢非違となり,
1323=27歳:
正中の変・1324=28歳: ついで従五位下, 佐渡守となった。
一方北条高時の相伴衆にも連なり,
北条氏外執権1326=30歳: 高時の出家とともに出家し, 道誉と号する。

疎石円覚寺・1329=33歳: 父宗氏が没する。

元弘の変・1331=35歳: 元弘の乱に際し, 後醍醐天皇隠岐配流の警固を命じられ, ついで北畠具行を鎌倉へ護送の途中, 幕命によって近江柏原で斬る。

1332=36歳:
鎌倉幕府滅亡1333=37歳:
中先代の乱・1335=39歳: 中先代の乱に際し尊氏とともに東下し, 後醍醐天皇が尊氏討伐の勅を出す, 尊氏に決起を促す。以後, 乱世を生き延びるべく, 天皇方, 尊氏方と寝返り繰り返し,
南北朝分裂・1336=40歳: *結局, 尊氏配下の武将としてたびたびの合戦に従軍し, 幕府建設に貢献。その功により, 東近江の守護となったのを手はじめに, 若狹, 出雲, 上総, 飛騨, 摂津の守護となり, 近江柏原, 伊吹, 甲良荘以下各地に所領を宛行あるいは安堵され, さらに2度にわたって幕府の政所執事をつとめる。
1340=44歳: その間, 有名な(門跡の)比叡山妙法院焼討ち事件をおこすが, 死罪にはならず, 嫡男秀綱とともに配流されると, 道楽三昧, 4か月後には呼び戻される。武家使者申詞という, 幕府の希望を朝廷に伝える重要な役職にあったが, 連歌会を主宰し, 公家からも一目置かれた力が, 欠かせないものであったのである。
1341=45歳: 近江甲良に, 菩提寺となる勝樂寺を創建。
南朝軍との合戦の中で秀綱やその子秀詮を失うなどの痛手もうけた。

観応の擾乱始1350=54歳: 観応の擾乱に代表される幕府の内訌には, 主として尊氏・義詮側にち, 南朝から尊氏・義詮追討の論旨を

観応の擾乱終1352=56歳: *尊氏をして, 後醍醐天皇に降伏させる形で, 直義追討の論旨を得させて, 尊氏の勝利を実現させる。

1354=58歳: 道誉の家で千句連歌会があるなど, 連歌をよくし, 道誉風の連歌が流行したといわれ,
菟玖波集・1356=60歳: 「菟玖波集」には73句が採用されて第4位を占める。同集が勅撰に準ぜられたのも道誉の尽力による。
1357=61歳: 重宝を集めて茶会を催すなど, “ばさら”(梵語で金剛石の意)の王者の顔を持ち,
足利尊氏死・1358=62歳: 尊氏が死去して, 義詮が将軍になると, 細川清氏, 仁木頼章, 土岐頼康ら, 足利氏御家人とともに, 評定衆になって将軍を支えるが,
1359=63歳: 仁木頼章が権勢を振るうようになると, 他の評定衆とともに, 追放し,
1360=64歳:

細川清氏が, 道誉を排除すべく画策するのに対し, 義詮をして討伐せしめ, 武家権勢道誉法師と畏れられるまでになる。清氏の失脚とともに, 将軍家に匹敵する格式の家の斯波高経(実際, 当時は足利高経と呼ばれていた)が権勢を振るうようになり, 幕府の要職を独占, 鎌倉幕府の執権北条氏のようなのではないかと危惧するも, 手を打つことができなくなる。高経の三男には娘を嫁がせており,

1366=70歳: *高経から, みずからの権勢を見せつけるべく花見の招待状が来ると, 同日に, 自由奔放の中にも創意をこらした, まさに“ばさら”の大原野花会を開催, 高経の方にはほとんど誰も来ず, 怒り心頭の高経は, 道誉の摂津守護職を召し上げたが, 他の守護職と連携して, 義詮に奏上, 高経を追放に至らせたのである。

細川頼之管領1367=71歳: 新玉津島社歌合わせ。_南北朝の講和交渉を進めるなど,

足利義満将軍1368=72歳: 政治情勢の変転きわまりない内乱期に, いわゆる権謀術数を駆使, 朝幕交渉でも重要な役割を果たし, よく京極家の家運をひらくとともに, 本拠地近江国甲良の領民のため, 荒地を開墾, 溜池を造成, 治水工事をするなど, 暮しと安全を守って暮れ, 米の増産による収入が, 活動の背景になった。まさに, 周りを気にせず, やるべきことをやることに, 生涯をかけて,
鎌倉五山制定1373=77歳: 没した。